

神奈川ウォーキング参加 H24-16

# 全国交流ウォーキング in 富士

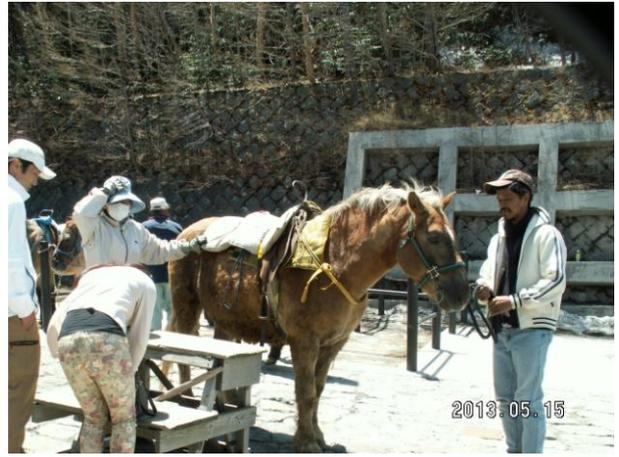
## 下見ウォーク



日時 : 平成 25 年 5 月 15 日 (水) 集合 : 東神奈川「イオン」前 7 : 50 出発 8 : 00  
コース : 東神奈川<レンタカーバス : 運転手高橋辰さん>⇒富士五合目 P⇒三合目入口⇒「エバーグリーン富士」ホテル⇒忍野八海⇒東神奈川 (伊藤自宅含め 12,000 歩)  
参加者 : 神奈川 19 人、東京 4 人、川崎 4 人 合計 27 人 **世界文化遺産登録近し!**



五合目駐車場



五合目パーキング (2305mh) 管理センター 11:15 4,800歩。小御嶽神社周辺散策し、11:45 5,500歩「精進口コース」を三合目に向けて下る。(ガイドブックでは片道1:40、約3,8kmとなっている) 快晴の天候で富士山もバッチリ見えます。登山道には残雪もありましたが、むしろ溶岩石ころに要注意。杖を持ってきて正解でした。吉野会長テンポ少し早目で後方から待っての声。本番に向けて高橋文さんに解説教授。溶岩の中に新緑の木々、倒木、大木、苔等自然が作り出した光景は素晴らしい。マイナスイオンたっぷり。





船津口登山道と精進口登山道の分岐点広場で桜の花が咲いておりました。13:10 12,900歩、7,400歩下山したことになる。



三合目: 1, 786m 13:25 14,100歩。スバルライン自動車道路の標識↑→ここから車道を、高橋辰さんが待っている「樹海台駐車場」まで歩く。13:40



15、200歩

五合目 15、200歩 - 樹海台 5、500歩 = 9,700歩、6.3km 約2時間

「エバーグリーン富士」ホテル到着14:40 平野さん手配済みのお弁当が届けてあり、遅めの昼食おにぎりと差し入れのお茶で美味しく戴く。その後ホテル内を見学、説明を聴く



2013.05.15

一階食堂



2013.05.15

二階交流会場（正面演台とスクリーン、横断幕は左窓上にする）

忍野八海：富士山延暦噴火（800～802）により宇津湖が山中湖と忍野湖に分かれた後、忍野湖が乾き盆地となり、湧水口池として残った。



2013.05.15



2013.05.15

### 忍野八海の八池

1. 出口池
2. 御釜池
3. 底抜け池
4. 銚子池
5. 湧池
6. 濁池
7. 鏡池
8. 菖蒲池



2013.05.15



2013.05.15



2013.05.15



2013.05.15



2013.05.15



2013.05.15

湧き水だから、透き通り錦鯉も綺麗に映える

民家や水車小屋、昔を偲ばせるために建物が造られ、観光化された感じを受ける。



鏡池に写った富士山



民家の冠木門

民家の庭、手入れが大変



草もちを買って美味しく戴きました。16:30バスに乗り途中一回のトイレ休憩で、18時半頃東神奈川「イオン」前に順調に無事到着しました。有志24人で高橋辰運転手さんと仲Lの慰労を兼ねてアフターウォーク反省会。

6/1(土) 集合・出発時間変更 相鉄線海老名駅改札口 集合7:15 出発7:30

編集後記：吉越さんから参加を要請され、本番L・SLなし、写真撮りの条件で参加させて戴きました。40数年ぶりの富士でしたが、KWCでも2011/11/6下見をされており時間歩数は参考までに。

6/1(土) 本番コースはABCDEグループ5コースあり、初めて対面の人のL・SL大変だと思いますが、一番心配なのは天候です。好天・雲なしを期待しましょう。いつもの拙いボケ防止日記帳です。

**参考資料：**山に登ると「合目」登山者には残りの目標が判り、励みになり有難いのですが、いつも疑問を持っていたので、調べてみました。数説ある中から下記を参考までに引用させて頂きました。

L・SLの方ウォーキング中の給水タイムにこぼれ話のネタにどうぞ。

## 何合目という言い方はどこからきたのでしょうか？

『合目』とはいったい何なんでしょうか。この『合目』についての資料は大変少なく、わずかに大著『富士の研究』(全六巻・富士山本宮浅間神社社務所・昭和三年刊)に見ることができます。それによると、なぜ容量を表す『合』を用いたかに付いては五つの説が上げられています。

- (1) 富士山は柵に入れた米を地上にあげたときの形に似ているので、柵目を用いて一里を一合とした。
- (2) 梵語の『劫』が『合』に変化した。つまり、富士登山の苦しさを人生の苦難にみたて、その難しさを劫数⇒合目で表した。
- (3) 富士山の祭神はコノハナサクヤヒメという女神であるので、生命誕生、胎生十ヶ月を十号に分けた。
- (4) 山頂のことを御鉢といい、仏教用語でもおそなえする米を御鉢料と言うところから、米にたとえて『合』で区分した。
- (5) 昔から洪水の水量をたとえるのに『何合何勺』の水といったので、これにあてはめた。

つぎに、どのようにして一合目から頂上までの距離を決めたのでしょうか。はっきりしたことはわからないのですが、かつての登山が、修行や人間形成のための登山であったことを考えると、各人の最終目的を十段階に設定し、その到達状況で、現在は何合目と決めたのではないか。また、昔、山伏が酒一升かついで富士山に登り、途中で休んでは一合飲み、また休んでは一合飲みで、頂上に着いたときに最後の一合飲み終えたというお話もあります。



入口～1合目	登山時間/2時間15分
1合目～3合目	登山時間/50分
3合目～5合目	登山時間/1時間
5合目～6合目	登山時間/20分
6合目～7合目	登山時間/1時間
7合目～8合目	登山時間/1時間30分
8合目～頂上	登山時間/1時間30分